

# ビワ生育情報

第 1 報  
千葉県農林水産部  
令和元年 10 月号

花房発現期は例年よりも遅れており、花房数は平年並みの傾向である。

台風により倒木し樹勢が低下した樹については強めに摘房し樹勢の回復を図る。

## 令和元年 7～9 月の気象

令和元年 7～9 月の気象は表 1 に示した。7 月の月平均気温は 23.5℃で、平年より 0.8℃、前年より 3.1℃低かった。降水量の月合計は 291mm で、平年の 150%、前年の 188%と非常に多かった。日照時間の月合計は 105 時間で平年の 62%、前年の 41%であり非常に短かった。関東甲信地方の梅雨明けは 7 月 24 日ごろで、平年より 3 日、前年より 25 日遅かった。

8 月の月平均気温は 27.1℃で、平年より 1.1℃、前年より 0.3℃高かった。降水量の月合計は 72mm で、平年の 50%と少なかったが極端に降水量が少なかった前年の 277%であった。日照時間の月合計は 229 時間で平年の 106%、前年の 90%であった。

9 月の月平均気温は 24.4℃で、平年及び前年より 1.7℃高かった。降水量の月合計は 321mm で、平年の 128%、前年の 77%であった。日照時間の月合計は 191 時間で平年の 132%、前年の 166%であった。

9 月 9 日に台風 15 号が本県に上陸し、日本列島を縦断した。その影響で、本県にも農作物や園芸施設等に多大な被害が生じた。

表 1 令和元年 7～9 月の気象(暖地園芸研究所)

月	半月	平均気温 (°C)			降水量 (mm)			日照時間 (h)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7	1	22.5	22.7	25.8	109	37	7	5	21	42
	2	20.2	23.3	26.0	37	44	25	13	23	37
	3	21.3	24.4	26.8	82	38	53	6	25	38
	4	23.7	24.7	27.5	23	23	0	10	28	53
	5	25.5	25.1	27.7	3	25	0	21	32	49
	6	27.0	25.8	25.5	38	27	70	49	42	37
月平均/計		23.5	24.3	26.6	291	194	155	105	169	256
8	1	27.6	26.0	28.1	0	21	0	54	36	54
	2	27.7	26.1	26.0	0	27	10	58	36	22
	3	28.0	26.2	27.7	25	25	1	34	35	41
	4	27.4	26.0	23.8	0	22	14	32	35	42
	5	26.1	25.9	27.7	3	19	1	21	35	41
	6	25.9	25.7	27.6	44	30	0	30	40	55
月平均/計		27.1	26.0	26.8	72	145	26	229	217	255
9	1	26.2	24.9	25.4	0	26	24	46	30	18
	2	27.0	24.2	25.9	173	45	75	40	28	33
	3	24.4	23.5	21.2	10	30	30	19	25	10
	4	22.3	22.4	22.4	119	41	59	27	23	18
	5	23.8	21.4	22.3	10	50	52	25	21	21
	6	22.7	20.4	19.2	10	59	176	35	20	14
月平均/計		24.4	22.7	22.7	321	251	416	191	145	115

表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

## 樹及び花房の発育

花房の発現期は表2に示した。「楠」は9月26日で、平年より11日、前年より16日遅かった。「大房」は9月27日で、平年より8日、前年より16日遅かった。「田中」が9月23日で、平年より8日、前年より10日遅かった。花房の発現は3品種共に平年より遅れている。花房数は平年並みの傾向である。

夏枝の発生は平年より多いが、秋枝の発生は平年並みで、樹の生育は順調である。

表2 花房発現期（暖地園芸研究所）

品種	本年 (月.日)	平年 (月.日)	前年 (月.日)
楠	9.26	9.15	9.10
大房	9.27	9.19	9.11
田中	9.23	9.15	9.13

平年：1989年～2018年の30年間の平均

## 台風による被害を受けた樹の管理

10月1日現在、4個の台風が日本列島に上陸した。強風により倒伏した樹は起こし、損傷の程度に応じて枝を切り詰める。起こせない場合は、管理しやすいように枝を整理する。根が地面に露出しているところは、覆土をして根の回復を図る。このときバーク堆肥を一緒に混ぜると、細根の再生が促され樹の回復が早い。白紋羽病の恐れのあるところは農作物病虫害雑草防除指針に従って防除する。

### 11月の管理

11月中旬には主要品種の開花が始まる。10月から引き続き行っている摘房・摘蕾は開花前に終わらせた。アブラムシの防除は摘房・摘蕾の終了後に行う。

#### 摘房・摘蕾

11月から12月にかけて摘房・摘蕾を行う。摘房では最終的な着果房率（全ての枝に対して果房が着生する枝の割合）が50～60%になるように調整する。発育不良の花房や混み合った花房等を間引いて1樹内の花房数を調整する。

摘房を行うと、残した花房が充実するので、開花、結実及び幼果の初期生育が良好に進み、品質の揃った果実を生産することができる。また、余分な花房が少なくなるので、摘果作業が軽減される。

摘房と同時に摘蕾を行う。摘蕾では花房基部から3段目までの小花梗枝（花房の枝）の中から充実した2段を残して他をかき取り、花房内の花数を調整する。摘蕾は、残された蕾の充実を促すので、摘房と同様の効果がある。花房の長さが3～5cmに生長して、下部の2～3段の側花こうが分離した頃が作業しやすく、花房全体の開花期を著しく延長することができる。開花期が延長することによって寒害を回避しやすくなるので、この時期を逃さずに摘蕾を行う。

#### アブラムシの防除

ビワに寄生するナシミドリオオアブラムシは緑色大型のアブラムシで、ビワの葉裏の主脈に沿って加害する。寄生された葉は紅(黄)葉し、次々と加害しながら繁殖していくので、短期間のうちに甚だしい落葉を見ることがある。また、排泄物はすす病を誘発するため、樹勢が著しく低下する場合もある。防除は発生状況を見て随時行う必要があるが、発生初期が効果的である。11月にはナシなどからアブラムシが移り、繁殖期に入るので、この時期の防除は重要である。防除に当たっては、農作物病虫害雑草防除指針に従って行う。

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>